

フィリピン渡航 2018 夏 活動報告書

学生ボランティア団体fan×fun

フィリピン渡航2018 夏



概要

2018年9月2日～9月10日に、フィリピン・セブにて、小学校でのボランティアやダンプサイト、スラム街訪問などのスタディツアー、調査を行った。

目的

本活動は以下のことを目的に行った。

- ・小学校の出席率を高めるために、子どもたちが夢について考えるきっかけを作り、学ぶ意欲を向上させること、子どもが学校に通いたくなること
- ・現地の生活や現状、問題、ニーズの調査

スケジュール

- 9/2 セブ到着
- 9/3 ダンプサイト訪問、ホープ地域訪問&ホームステイ
- 9/4 BIASONG小学校で企画、MARS訪問
- 9/5 休日
- 9/6 ロレガ地域訪問
- 9/7 ZAPATERA小学校で企画
- 9/8 GKコミュニティ、エコハウス訪問
- 9/9 休日
- 9/10 セブ出発

<調査>

○ホープ地域 調査

日時 2018年9月3日(月)

場所 ホープ地域

目的

スラムの現状、問題やその人たちの価値観を知るためである。

調査方法 聞き取り調査

結果

悩み・問題点では金銭面や、街中や川にゴミが多く捨てられていることなどが上がった。また、その地域の中でも収入などで格差があることが分かった。教育面では、親は学校を途中で退学している人が多く、子供に教育を終えてほしいと望む親が多かった。楽しいと感じる時はいつかという質問には家族でいる時という答えが多くみられた。



○BIASONG小学校 調査

日時 2018年9月4日(火)

場所 BIASONG小学校

目的

小学校の現在の状況、課題を把握するためである。

調査方法 聞き取り調査

結果

小学校は以前の渡航時と大きく変わったことはなさそうであった。しかし、新たに分かったこととして、クラブ活動があること、また生徒、皆中学校に進学するということである。そして、現在図書館を建設中とのことである。



○ロレガ地域 調査

日時 2018年9月6日(木)

場所 ロレガ地域

目的

スラム街であるロレガの生活を調査することである。

調査方法 聞き取り調査

結果

ロレガはセブシティの中で最貧困地域の一つであるが、ロレガ内でも経済格差は明らかだった。ロレガの中にあるGKコミュニティ(フィリピン最大のNGOが運営する)は職がある家庭が多く、その一方で、火事の焼け跡地に住む家庭は仕事がなく、より貧しい生活をしてきた印象である。また、薬物がこの地域では蔓延しており、それが原因で刑務所に入っている人がいた。それらが影響し、子どもが学校に通い続けることができなくなったり、通っていない状況も見られた。調査を通して、この生活で満足している人もいれば、収入が大変少なく生活していくことに必死の人達もおり、ロレガといっても一貫して言うことは難しいと感じた。



○ZAPATERA小学校 調査

日時 2018年9月7日(金)

場所 ZAPATERA小学校

目的

新たな活動地域として、学校の現状を把握するためである。

調査方法 聞き取り調査

結果

授業参加率は90%弱である。学校を欠席してしまう生徒の多くは学校に関心がない、または貧しいからである。貧しい家庭では、生徒がお金稼ぎをしたり、病気のお母さんの看病を見たりと理由は様々であった。しかし、生徒向けに奨学金制度はある。いくつかの財団が文房具など学校で使う物の支援を行っている。



<プロジェクト>

○Steps to Dreams

場所 BIASONG小学校

日時 2018年9月4日(火)

目的

子どもたちが将来やりたいことやなりたい姿を想像し、これからの見通しを考えてもらうことで、学校に通う意欲向上を行うことである。

内容

将来の夢のためにやるべきことを書き出し、すごろくシートに埋め、遊ぶ。

- ①先生の体験談を話してもらう
- ②夢へのステップを書き出す
- ③すごろくシートの空欄にスペースを埋める
- ④5、6人で1チーム作り、遊ぶ

結果

楽しみながら将来の夢、Stepを書き、楽しみながら、すごろくで遊んでくれた。しかし、子どもたちの意識が変わったかどうか、学校に行く意欲へ繋がったか、に関する具体的な評価方法がなく、効果があったか定かではない。



○スポーツフェスティバル

日時 2018年9月7日(金)

場所 ZAPATERA小学校

目的

フィリピンの子供たちに学校へ来たくなる思い出となるイベントにすることである。

内容

小学校6年生約50人を4チームに分け、ミニ運動会を行った。

1. 二人三脚
2. 台風の目
3. 大縄
4. リレー

以上の競技を行い、得点をチームで競った。

結果

楽しんでくれた生徒は大いに楽しんでくれた。しかし、中には、途中から競技に参加せず、ただ見ているだけの生徒もいた。そういった生徒への配慮、対応を考えなければならなかった。小学校の正確な情報不足と準備不足のため、満足のいくレベルのものにはできなかった。



○子ども支援プロジェクト

目的

メンバーの出身校から文房具などの物資や古着などを集め、経済的に苦しい子どもたちに提供することである。

内容・結果

①東京都立町田高等学校から物資を集めた。

- ・ ノート 26冊
- ・ 鉛筆 103本
- ・ 消しゴム 92個
- ・ 色鉛筆、カラーペンセット
- ・ 古着Tシャツ 33枚
- ・ タオル 9枚

②古着Tシャツ、タオルをロレガ地域へ緊急支援物資として寄付。

背景:5月にロレガ地域で火事が発生し、多くの服がなくなってしまったから。

③鉛筆をはじめとする文房具をBIASONG小学校に寄付しました。



<訪問>

○ダンプサイト

日時 2018年9月3日(月)

状況

以前2018年2月に訪れた際と比べて、ゴミの量が明らかに増加していた。その一方で、ダンプサイト内に住む人が減少し、また子どもの出入りは禁止されたようだ。

○MARS

日時 2018年9月4日(火)

内容

日本のNPOと現地法人が共同で支援を行なっているアクセサリーを作るフィリピンのお母さんグループである。実際に、訪れ、話を聞かせていただいた。フェアトレードなど前向きに検討中である。

○Archivalエコハウス

日時 2018年9月8日(土)

内容

多くの物をリサイクルし、再利用を行なっているエコハウスである。ゴミの問題があるフィリピンにとって、モデルケースとなる場所である。私たちの活動にも参考にする予定である。

